

会計-款-項-目-事業名称	最終予算現額	決算額	ページ	備考
一般会計				
教育総務課				
9.教育費				
1.教育総務費				
1.教育委員会費				
教育委員会	1,809	1,791	14-1	
2.事務局費				
インクルーシブ教育システム推進事業	1,130	1,128	14-2	
スクールソーシャルワーカー活用事業	2,673	2,673	14-3	
教育委員会事務局費	67,666	66,073	14-4	
語学指導外国青年招致事業	7,774	7,476	14-5	
地域学校協働活動推進事業	689	551	14-6	
麟蹄郡中学校交流事業	273	271	14-7	
2.小学校費				
1.学校管理費				
一般経常経費(浦安小)	3,472	3,391	14-8	
一般経常経費(聖郷小)	2,832	2,441	14-9	
一般経常経費(赤碕小)	3,340	3,100	14-10	
一般経常経費(船上小)	2,777	2,532	14-11	
一般経常経費(配分外)	71,166	64,875	14-12	
一般経常経費(八橋小)	3,595	3,307	14-13	
2.教育振興費				
一般教育振興費(浦安小)	2,421	2,306	14-14	
一般教育振興費(聖郷小)	1,389	1,278	14-15	
一般教育振興費(赤碕小)	2,220	2,151	14-16	
一般教育振興費(船上小)	1,843	1,742	14-17	
一般教育振興費(配分外)	29,243	28,966	14-18	
一般教育振興費(八橋小)	2,630	2,432	14-19	
総合的な学習	799	774	14-20	
通級指導教室	82	74	14-21	
3.中学校費				
1.学校管理費				
一般経常経費(赤碕中)	3,204	3,044	14-22	
一般経常経費(東伯中)	3,092	2,850	14-23	
一般経常経費(配分外)	57,846	57,593	14-24	
2.教育振興費				
一般教育振興費(赤碕中)	3,118	2,805	14-25	
一般教育振興費(東伯中)	3,985	3,739	14-26	
一般教育振興費(配分外)	21,918	20,651	14-27	
総合的な学習	309	227	14-28	
通級指導教室(中学校)	84	77	14-29	
5.保健体育費				
4.給食センター運営費				
学校給食事業	78,845	78,763	14-30	
10.災害復旧費				
2.地震災害復旧費				
2.鳥取県中部地震対策費				
鳥取県中部地震災害対策事業(地震災害復旧費・教育総務課)	5,385	5,349	14-31	

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	243	事業名	教育委員会				会計区分	一般会計									
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係	事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続											
予算区分	款	9	教育費	項	1	教育総務費	目	1	教育委員会費								
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)									
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源										
平成29年度	1,809	1,791	0	0	0	0	1,791										
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0										
経費の内訳	報酬 1,718千円、需用費 10千円、負担金、補助及び交付金63千円																
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)										
設定なし		目標	—	—	—	—	—										
		実績	—	—	—	—	—										
		達成率	—	—	—	—	—										
事業対象	教育委員会の運営 (教育委員 4 人)																
事業目的	町長が招集する総合教育会議において教育大綱を策定します。 地域の教育課題に応じた基本的な教育方針・計画を策定します。 教育長及び事務局の事務執行状況を監視・評価し、広く地域住民の意向を反映した教育行政を実現します。																
事業の 主な 実施状況	<p>① 地域の教育課題に応じた基本的な教育の方針・計画を協議するとともに、教育長及び事務局の事務執行状況を監視・評価するための報酬を支払いました。</p> <p>総合教育会議において、町長とともに大綱の策定に関する協議及び重点的に講ずべき施策、また、緊急の場合に講ずべき措置について協議・調整を行いました。</p> <p>計画訪問や学校・地域の行事に出向き、学校・地域の実情や課題の的確な把握に努め、教育ビジョン形成に役立てました。</p> <p>② 以下の項目について支出しました。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">項 目</th> <th style="text-align: center;">金 額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教育委員報酬</td> <td style="text-align: right;">1,718,400</td> </tr> <tr> <td>消耗品費(教育委員関係時報購入)</td> <td style="text-align: right;">9,900</td> </tr> <tr> <td>市町村教育委員会研究協議等負担金 等</td> <td style="text-align: right;">63,100</td> </tr> </tbody> </table>									項 目	金 額(円)	教育委員報酬	1,718,400	消耗品費(教育委員関係時報購入)	9,900	市町村教育委員会研究協議等負担金 等	63,100
項 目	金 額(円)																
教育委員報酬	1,718,400																
消耗品費(教育委員関係時報購入)	9,900																
市町村教育委員会研究協議等負担金 等	63,100																
成果と 課題	<p>【前年度課題の概要】</p> <p>① 地方創生や生涯教育を見据えて、社会教育や就学前教育(保育園・こども園)についての実態把握と連携を深める必要があります。</p> <p>② 今日的課題である、特別支援教育の理解を深める必要があります。</p> <p>【成果及び前年度課題に対する対応】</p> <p>① 関係課及び関係機関と連携を図り、就学前教育等の実態把握に努めました。</p> <p>【次年度に向けての課題】</p> <p>① 地方創生や生涯教育を見据えて、社会教育や就学前教育(保育園・こども園)についての実態把握と連携を深める必要があります。</p> <p>② 今日的課題である、特別支援教育、いじめ、不登校等の問題、働き方改革、教職員の負担軽減について理解を深める必要があります。</p>																
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10.7,3.0							
	評価点	7	10	1	3	3	0	妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10.7,3.0							
									公平性	受益者の偏りはないか。	5.3,1.0						
									有効性	目標数値は達成できたか。	5.3,1.0						
合計点	24	総合 評価	B	教育委員会の運営のため、必要不可欠であり、継続すべきである。				効率性	コスト・人員効率はどうか。	5.3,1.0							
								先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5.3,1.0							

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	1219	事業名	インクルーシブ教育システム推進事業			会計区分	一般会計									
担当課	教育総務課		担当係	指導係		事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続									
予算区分	款	9	教育費	項	1	教育総務費	目	2	事務局費							
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)								
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源									
平成29年度	1,130	1,128	367	360	0	0	401									
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0									
経費の内訳	報償費 1,100千円、需用費 28千円															
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)									
設定なし		目標	—	—	—	—	—									
		実績	—	—	—	—	—									
		達成率	—	—	—	—	—									
事業対象	地域支援コーディネーター1人配置（町内の保育園・こども園・小中学校を対象）															
事業目的	障がいのある子どもを含むすべての子どもに対して、子ども一人ひとりのニーズにあった適切な教育的支援を行います。															
事業の主な実施状況	<p>合理的配慮を必要とする児童生徒の早期支援につなげるため、特別支援コーディネーターが、こども園、学校を訪問し、児童生徒のアセスメント、支援に関する助言等を行っています。</p> <table border="1"> <tr> <th>相談件数（平成29年度）</th> <th>のべ件数</th> </tr> <tr> <td>保育園・こども園</td> <td>176件</td> </tr> <tr> <td>小学校（5校）</td> <td>233件</td> </tr> <tr> <td>中学校（2校）</td> <td>96件</td> </tr> </table> <p>① 各学校における特別支援教育に係る校内体制整備に向けて助言しました。 ② 教育相談を実施し、必要に応じて関係機関への連携を図りました。 ③ 通級担当者（東伯中・八橋小）と連携し、町全体の取組について協議しています。</p>								相談件数（平成29年度）	のべ件数	保育園・こども園	176件	小学校（5校）	233件	中学校（2校）	96件
相談件数（平成29年度）	のべ件数															
保育園・こども園	176件															
小学校（5校）	233件															
中学校（2校）	96件															
成果と課題	<p>【前年度課題の概要】</p> <p>① 特別支援教育コーディネーターの訪問・支援相談時間に制約があります。 ② 発達障がいや、合理的配慮に対する保護者の理解への啓発活動を進める必要があります。</p> <p>【成果及び前年度課題に対する対応】</p> <p>① 各学校のニーズに合わせて訪問し、適切な支援、助言をすることができました。 ② 4歳児、5歳児訪問で、全ての園に出向き、就学に向けた支援を行うことができました。 ③ 通級担当者と連携し、「読みのつまずき」の早期発見、早期支援につなげる研修会を開催できました。 ④ 町内の特別支援に係る代表者会を開催し、「保護者啓発」に向けた取組について協議できました。</p> <p>【次年度に向けての課題】</p> <p>① コーディネーターの活用状況に学校差があります。活用の少ない学校への働きかけが必要です。 ② 「読みのつまずき」の早期発見、早期支援に向けた取組を全ての小学校で実施していく必要があります。</p>															
所管課の評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。 10,7,3,0 妥当性 行政必須か、委託の可能性は。 10,7,3,0 公平性 受益者の偏りはないか。 5,3,1,0								
	評価点	10	10	3	5	3	3	有効性 目標数値は達成できたか。 5,3,1,0 効率性 コスト・人員効率はどうか。 5,3,1,0 先駆性・独創性 他の見本となりえるか。 5,3,1,0								
	合計点	34	総合評価	B	早期支援につなげるために、専門性のある特別支援コーディネーターを継続して配置する必要があります。			A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止								

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	1186	事業名	スクールソーシャルワーカー活用事業				会計区分	一般会計		
担当課	教育総務課		担当係	指導係		事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続			
予算区分	款	9	教育費	項	1	教育総務費	目	2	事務局費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)		事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)	
		国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源				
平成29年度	2,673	2,673	0	1,782	0	0	891			
平成29年度(明許)										
経費の内訳	報償費 2,673千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
設定なし		目標	—	—	—	—	—	—		
		実績	—	—	—	—	—	—		
		達成率	—	—	—	—	—	—		
事業対象	スクールソーシャルワーカーの配置(東伯中学校に配置し、町内各学校の相談に対応)									
事業目的	社会福祉士の専門的な知識・技術を用いて、児童生徒の置かれた様々な環境に働きかけて支援を行うスクールソーシャルワーカーを配置し、福祉や医療と連携し相談業務を行います。									
事業の 主な 実施状況	① 支援が必要な児童生徒のケースに関わり、ケース会議に向けた関係機関の調整、アセスメント資料作成等を行いました。 ② 不登校や問題行動等にスクールソーシャルワーカーが関わることにより、福祉との連携等より幅広い対応が行えました。 ・スクールソーシャルワーカーが関わった件数 延べ 334件									
成果と 課題	【前年度課題の概要】 ① 学校側から観ると、スクールソーシャルワーカーの活動と位置づけが、組織としてまたは個人としての関わりなのか不明瞭です。 ② スクールソーシャルワーカーの勤務が非常勤で、対応できるケースに限界があります。 【成果及び前年度課題に対する対応】 ① 今年度よりスクールソーシャルワーカーを教育委員会事務局教育総務課に配置することにより、要保護児童地域対策協議会をはじめ他機関との連携を図ることができました。 ② 事務局配置により、迅速に各校の情報を共有・対処できるようになりました。 【次年度に向けての課題】 ① 関係機関とのネットワークの構築、連携、調整を継続・強化する必要があります。 ② すべての学校において体制の構築を図る必要があります。									
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 妥当性 公平性	住民ニーズ、事業の必要性は。 行政必須か、委託の可能性は。 受益者の偏りはないか。	10,7,3,0 10,7,3,0 5,3,1,0
	評価点	10	10	3	3	3	1	有効性 効率性 先駆性・独創性	目標数値は達成できたか。 コスト・人員効率はどうか。 他の見本となりえるか。	5,3,1,0 5,3,1,0 5,3,1,0
	合計点	30	総合評価	A	教育分野だけでは課題解決が難しいケースに対して、スクールソーシャルワーカーの必要性は高まっている。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止	

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	245	事業名	教育委員会事務局費				会計区分	一般会計														
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係		事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続															
予算区分	款	9	教育費	項	1	教育総務費	目	2	事務局費													
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)														
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源	基金繰入金、貸付金等元利収入、 貸与元利収入、基金利子														
平成29年度	67,666	66,073	0	3,413	1,143	0	61,517															
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0															
経費の内訳	報酬 1,200千円、賃金 20,822千円、報償費 564千円、旅費 164千円、交際費 5千円 需要費 218千円、役務費 862千円、委託料 16,731千円、使用料及び賃借料 13,816千円 備品購入費 40千円、負担金、補助及び交付金 10,613円 貸付金 60千円 積立金 971千円、公課費 7千円																					
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)															
設定なし		目標	—	—	—	—	—															
		実績	—	—	—	—	—															
		達成率	—	—	—	—	—															
事業対象	小学校5校 児童数892名、中学校2校 生徒数455名、教職員数約170名																					
事業目的	教育委員会事務局及び学校全般に係る事務を処置します。																					
事業の 主な 実施状況	① 少人数学級の設置により、子どもたちの学びやすい学校環境をつくり、教員の学級経営の負担軽減を行いました。 ② 学校に町講師及び教育相談員等を配置し、学校教育・学校環境を支援しました。 ③ 学校ネットワークのセキュリティ強化のため、学校の情報ネットワーク分離作業を行いました。 ④ 教育委員会事務局及び学校全般等にかかる費用として、主に以下の項目について支出しました。																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>金 額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校関係職員の賃金等</td> <td>22,021,940</td> </tr> <tr> <td>学校情報ネットワーク分離業務、特別支援学校通学支援業務 教育ネットワーク保守委託料 学校業務支援システム導入等</td> <td>16,731,380</td> </tr> <tr> <td>教職員公務用パソコンリース料</td> <td>13,815,900</td> </tr> <tr> <td>少人数学級協力金負担金、学校業務支援システム負担金 等</td> <td>10,316,043</td> </tr> <tr> <td>その他 (小中学校職員健康診断手数料、高等学校生徒町内バス 通学補助金、林原育英奨学基金積立金及び貸付金 等)</td> <td>3,188,023</td> </tr> </tbody> </table>								項 目	金 額(円)	学校関係職員の賃金等	22,021,940	学校情報ネットワーク分離業務、特別支援学校通学支援業務 教育ネットワーク保守委託料 学校業務支援システム導入等	16,731,380	教職員公務用パソコンリース料	13,815,900	少人数学級協力金負担金、学校業務支援システム負担金 等	10,316,043	その他 (小中学校職員健康診断手数料、高等学校生徒町内バス 通学補助金、林原育英奨学基金積立金及び貸付金 等)	3,188,023		
	項 目	金 額(円)																				
	学校関係職員の賃金等	22,021,940																				
	学校情報ネットワーク分離業務、特別支援学校通学支援業務 教育ネットワーク保守委託料 学校業務支援システム導入等	16,731,380																				
	教職員公務用パソコンリース料	13,815,900																				
	少人数学級協力金負担金、学校業務支援システム負担金 等	10,316,043																				
その他 (小中学校職員健康診断手数料、高等学校生徒町内バス 通学補助金、林原育英奨学基金積立金及び貸付金 等)	3,188,023																					
成果と 課題	【前年度課題の概要】 ① 特別支援教育および教育相談体制の更なる充実と、今日的課題の解決に向けて引き続き取り組む必要があります。																					
	【成果及び前年度課題に対する対応】 ① 子どもたちがスムーズに就学が行えるよう保育園、こども園、学校、関係課及び関係機関と連携を図りました。 ② 町講師等を配置し、子どもたちが安心して学べる環境づくりを行いました。																					
	【次年度に向けての課題】 ① 学校業務支援システムの導入に伴い、教職員等の事務負担がどのように軽減されるか把握する必要があります。 ② 子どもたちが学びやすい環境をつくるため、引き続き少人数学級の設置、町講師や教育相談員の確保が必要です。																					
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0												
								妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0												
	評価点								公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0											
									有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0											
合計点	29	総合 評価	B	教育委員会事務局および学校全般に係る事務処理を行う上で必要不可欠であり、継続すべきです。				効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0												
								先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0												

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	246	事業名	語学指導外国青年招致事業				会計区分	一般会計																
担当課	教育総務課		担当係	学務係		事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続																	
予算区分	款	9	教育費	項	1	教育総務費	目	2	事務局費															
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)																
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源																	
平成29年度	7,774	7,476	0	0	0	0	7,476																	
平成29年度(明許)																								
経費の内訳	報酬 6,845千円、旅費 1千円、負担金、補助及び交付金 630千円																							
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)																	
町任用ALT配置数	人	目標	2	2	2	2	2																	
		実績	2	2	2	-	-																	
		達成率	100%	100%	100%																			
事業対象	外国語指導助手2名 各中学校に配置																							
事業目的	児童、生徒が、外国語指導助手を通じてネイティブな外国語や異文化にふれ、国際感覚を身につけます。 英会話教室を開催し、地域住民と交流することにより国際理解を深めます。																							
事業の 主な 実施状況	<p align="center">○町内各園・小学校へ以下のとおり訪問・交流しました。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>1学期</th> <th>2学期</th> <th>3学期</th> <th>年度計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保育園</td> <td>15回</td> <td>15回</td> <td>10回</td> <td>延べ40回</td> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>26回</td> <td>26回</td> <td>19回</td> <td>延べ71回</td> </tr> </tbody> </table>										1学期	2学期	3学期	年度計	保育園	15回	15回	10回	延べ40回	小学校	26回	26回	19回	延べ71回
	1学期	2学期	3学期	年度計																				
保育園	15回	15回	10回	延べ40回																				
小学校	26回	26回	19回	延べ71回																				
成果と 課題	<p>【前年度課題の概要】</p> <p>① 英語教科化に向け、保育園・こども園や小学校での活動の見直しが必要です。</p> <p>【成果及び前年度課題に対する対応】</p> <p>① 町内各園・小学校や地域にALTが出向き国際交流を図ることができました。</p> <p>【次年度に向けての課題】</p> <p>① 平成30年度にALT1人の交代があり、各種手続きや生活に関するフォローアップなどが必要となります。</p>																							
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10.7,3.0														
		妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性・独創性	他	行政必須か、委託の可能性は。	10.7,3.0															
	評価点	10	3	3	3	3	1	公平性	受益者の偏りはないか。	5.3,1.0														
								有効性	目標数値は達成できたか。	5.3,1.0														
合計点	23	総合評価	B	英語教育の低年齢化が進んでおり、ニーズも高まっているため、継続して行うべき事業であると判断します。				効率性	コスト・人員効率はどうか。	5.3,1.0														
								先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5.3,1.0														

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	1125	事業名	地域学校協働活動推進事業				会計区分	一般会計											
担当課	教育総務課		担当係	指導係		事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続												
予算区分	款	9	教育費	項	1	教育総務費	目	2	事務局費										
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)											
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源												
平成29年度	689	551	0	367	0	0	184												
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0												
経費の内訳	報償費 342千円、旅費 1千円、需用費 158千円、役務費 50千円																		
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)												
設定なし		目標	—	—	—	—	—												
		実績	—	—	—	—	—												
		達成率	—	—	—	—	—												
事業対象	小中学校7校 ボランティアコーディネーター7名																		
事業目的	各小・中学校にボランティアコーディネーターを配置し、地域住民のボランティアの協力により、学校での生活支援や学習支援、環境整備、地域文化の伝承や安全パトロールなど、学校と地域が協働しながら、児童生徒へのきめ細やかな指導や安全安心な学校生活の実現を目指します。																		
事業の 主な 実施状況	<p>① 各学校にボランティアコーディネーターを配置し、学校と連携を図りながら教育支援活動を実施し、地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりを進めました。</p> <p>内容（連絡調整等の地域コーディネーター活動）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 登下校、マラソン大会、遠足の見守り活動 ・ 読み聞かせ ・ 学習支援 ・ 環境整備活動（除草作業など） ・ 連絡調整会 <p>② ボランティアコーディネーターの教育支援活動の一環として、以下の項目について支出しました。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>金 額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コーディネーター活動費</td> <td>341,760</td> </tr> <tr> <td>研修会参加旅費</td> <td>1,140</td> </tr> <tr> <td>ボランティア活動消耗品費・軽油等の燃料費</td> <td>157,948</td> </tr> <tr> <td>保険料</td> <td>49,700</td> </tr> </tbody> </table>									項 目	金 額(円)	コーディネーター活動費	341,760	研修会参加旅費	1,140	ボランティア活動消耗品費・軽油等の燃料費	157,948	保険料	49,700
項 目	金 額(円)																		
コーディネーター活動費	341,760																		
研修会参加旅費	1,140																		
ボランティア活動消耗品費・軽油等の燃料費	157,948																		
保険料	49,700																		
成果と 課題	<p>【前年度課題の概要】</p> <p>① 地域の創生に関わるような仕掛けづくりが必要です。</p> <p>② 住民による学校支援から、学校による地域支援への発展的な活動の創出が必要です。</p> <p>【成果及び前年度課題に対する対応】</p> <p>① 地域の方が学校支援ボランティア事業を通して、積極的に学校との関わりを持つことができました。</p> <p>② 児童・生徒が地域の人と繋がることによって、地域の一員としての意識が高まりました。</p> <p>【次年度に向けての課題】</p> <p>① 地域住民が学校に関わる仕組みを今後も継続していく必要があります。</p>																		
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 妥当性 公平性	住民ニーズ、事業の必要性は。 行政必須か、委託の可能性は。 受益者の偏りはないか。	10,7,3,0 10,7,3,0 5,3,1,0									
	評価点	10	7	1	3	3	3	有効性 効率性 先駆性・独創性	目標数値は達成できたか。 コスト・人員効率はどうか。 他の見本となりえるか。	5,3,1,0 5,3,1,0 5,3,1,0									
	合計点	27	総合 評価	B	地域の活性化や児童生徒の学力向上につながるため、継続すべきである。			A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止											

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	1247	事業名	麟蹄郡中学校交流事業				会計区分	一般会計											
担当課	教育総務課			担当係	指導係	事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続												
予算区分	款	9	教育費	項	1	教育総務費	目	2	事務局費										
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)											
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源												
平成29年度	273	271	0	0	0	0	271												
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0												
経費の内訳	報償費 20千円、需用費 50千円、使用料及び賃借料 201千円																		
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)												
設定なし		目標	—	—	—	—	—												
		実績	—	—	—	—	—												
		達成率	—	—	—	—	—												
事業対象	韓国江原道新南中学校生徒10人及び教員3人、東伯中学校生徒25人及び教員																		
事業目的	『東伯中学校及び韓国江原道新南中高等学校は、国際教育の一環として、学生達の未来的・文化的・言語的理解、国際的感覚を育み、友好と交流を促進します。』 ※調印式から抜粋:平成26年12月11日東伯中において実施																		
事業の主な実施状況	<p>① 東伯中学校の友好交流校である韓国江原道新南中学校の生徒と教師たちが来町し、東伯中学校の生徒及び教師と交流を深めました。</p> <p>【来町期間】 7月26日～7月28日(3日間) 【交流実施内容】 ・歓迎行事(運動会に向けて練習している「よさこいソーラン」を披露) ・生徒会による学校紹介 ・英語のレクリエーション ・茶道体験 等</p> <p>その他、来町した新南中学校の生徒は、日韓交流資料館、神崎神社、鳴り石の浜を見学しました。</p> <p>② 国際教育の一環として、以下の項目について支出しました。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>金 額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>体験活動指導謝金</td> <td>20,000</td> </tr> <tr> <td>茶道体験消耗品費、展示用写真代 等</td> <td>50,195</td> </tr> <tr> <td>宿泊費、会場使用料 等</td> <td>200,650</td> </tr> </tbody> </table>											項 目	金 額(円)	体験活動指導謝金	20,000	茶道体験消耗品費、展示用写真代 等	50,195	宿泊費、会場使用料 等	200,650
項 目	金 額(円)																		
体験活動指導謝金	20,000																		
茶道体験消耗品費、展示用写真代 等	50,195																		
宿泊費、会場使用料 等	200,650																		
成果と課題	<p>【前年度課題の概要】</p> <p>① 現地交流を活かした日常的な活動が難しいです。 ② テレビ会議等での交流方法を検討する必要があります。 ③ 韓国側の状況によって、交流方法が変更されてしまう傾向があります。</p> <p>【成果及び前年度課題に対する対応】</p> <p>① 国際教育の一環として、学生達の未来的・文化的・言語的理解、国際的感覚を育み、友好と交流の促進を行いました。 ② 新南中学校との交流方法及び内容については、学校の意見を踏まえ、引き続き検討を行います。</p> <p>【次年度に向けての課題】</p> <p>夏季休業中に全国中学校体育大会が鳥取県(中国ブロック)で開催され、夏季休業中に韓国を訪問することが難しいこと、また、今年度でお互いの訪問交流が完了することから、東伯中学校と韓国新南中学校が、今後の交流内容や事業の見直しを検討していく必要があります。</p>																		
所管課の評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10.7,3.0									
	評価点	3	7	0	1	1	3	妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10.7,3.0									
								公平性	受益者の偏りはないか。	5.3,1.0									
								有効性	目標数値は達成できたか。	5.3,1.0									
合計点	15	総合評価	D	今後の交流方法及び内容について検討を行う必要があります。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止											

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	258	事業名	一般経常経費（浦安小）			会計区分	一般会計		
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係	事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続			
予算区分	款	9	教育費	項	2	小学校費	目	1	学校管理費
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳（千円）					備考 (その他収入の内訳)	
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源		
平成29年度	3,472	3,391	0	0	0	0	3,391		
平成29年度(明許)									
経費の内訳	需用費 1,902千円、役務費 641千円、使用料及び賃借料 449千円、原材料費 36千円 備品購入費 363千円								
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)		
設定なし		目標	—	—	—	—	—	—	
		実績	—	—	—	—	—	—	
		達成率	—	—	—	—	—	—	
事業対象	浦安小学校 児童 212人、教職員 26人、学級数 12（内、特別支援学級 4）								
事業目的	浦安小学校の運営を円滑にするために、施設の維持管理及び環境整備を行います。								
事業の 主な 実施状況	<p>【主な修繕箇所】トイレ手洗い場水漏れ 【庁用備品】ポスタープリンタ購入</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">   </div> <div style="text-align: center;">  ポスタープリンタ （校舎内での掲示活用例） </div> <div style="text-align: center;">  （授業での掲示活用例） </div> </div>								
成果と 課題	<p>【前年度課題の概要】</p> <p>① 校舎の老朽化に伴う突発的な修繕・補修箇所が増えています。（S41. 2建築）</p> <p>【成果及び前年度課題に対する対応】</p> <p>① 突発的な軽微な修繕を行いました。 ② 備品としてポスタープリンタを購入し、拡大して視覚的にわかりやすく掲示ができ、授業や掲示などに有効に活用しました。</p> <p>【次年度に向けての課題】</p> <p>① 施設の老朽化に伴う修繕については配分予算内の対応が難しい状況です。 ② 夏季の暑さ対策、冬季の暖房のため空調設備の設置が必要です。</p>								
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。 10,7,3,0 妥当性 行政必須か、委託の可能性は。 10,7,3,0 公平性 受益者の偏りはないか。 5,3,1,0 有効性 目標数値は達成できたか。 5,3,1,0 効率性 コスト・人員効率はどうか。 5,3,1,0 先駆性・独創性 他の見本となりえるか。 5,3,1,0	
	評価点	7	10	5	3	3	1		
	合計点	29	総合 評価	B	児童が安心して生活できる学校の施設管理のため、必要不可欠であり継続して行うべきと判断します。			A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止	

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	259	事業名	一般経常経費（聖郷小）				会計区分	一般会計		
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係		事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続			
予算区分	款	9	教育費	項	2	小学校費	目	1	学校管理費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳（千円）					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	2,832	2,441	0	0	0	0	2,441			
平成29年度(明許)										
経費の内訳	需用費 1,635千円、役務費 676千円、使用料及び賃借料 108千円、原材料費22千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
設定なし		目標	—	—	—	—	—			
		実績	—	—	—	—	—			
		達成率	—	—	—	—	—			
事業対象	聖郷小学校 児童 107人、教職員 20人、学級数 8（内、特別支援学級 2）									
事業目的	聖郷小学校の運営を円滑にするために、施設の維持管理及び環境整備を行います。									
事業の 主な 実施状況	 <p>各教室のブラウン管テレビを廃棄しました。</p>									
成果と 課題	<p>【前年度課題の概要】</p> <p>① 校舎は建築から20年以上経過しており、老朽化に対応した環境整備が必要です。（H7.10建築）</p> <p>【成果及び前年度課題に対する対応】</p> <p>① 各教室に残っていたすべてのブラウン管テレビを廃棄しました。</p> <p>② 突発的な軽微な修繕を行いました。</p> <p>【次年度に向けての課題】</p> <p>① 施設の老朽化に伴う修繕については配分予算内の対応が難しい状況です。</p> <p>② 地震による被害拡大防止のため、各教室のテレビ台撤去（17台）が必要です。</p> <p>③ 校舎は建築から20年以上経過しており、老朽化に対応した環境整備が必要です。</p>									
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 妥当性 公平性	住民ニーズ、事業の必要性は。 行政必須か、委託の可能性は。 受益者の偏りはないか。	10,7,3,0 10,7,3,0 5,3,1,0
	評価点	7	10	5	3	3	1	有効性 効率性 先駆性・独創性	目標数値は達成できたか。 コスト・人員効率はどうか。 他の見本となりえるか。	5,3,1,0 5,3,1,0 5,3,1,0
	合計点	29	総合 評価	B	児童が安心して生活できる学校の施設管理のため、必要不可欠であり継続して行うべきと判断します。			A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止		

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	378	事業名	一般経常経費（赤碕小）			会計区分	一般会計			
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係		事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続			
予算区分	款	9	教育費	項	2	小学校費	目	1	学校管理費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳（千円）					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	3,340	3,100	0	0	0	0	3,100			
平成29年度(明許)										
経費の内訳	需用費 1,913千円、役務費 564千円、使用料及び賃借料 297千円、原材料費 9千円 備品購入費 317千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
設定なし		目標	—	—	—	—	—			
		実績	—	—	—	—	—			
		達成率	—	—	—	—	—			
事業対象	赤碕小学校 児童 220人、教職員 26人、学級数 13（内、特別支援学級 4）									
事業目的	赤碕小学校の運営を円滑にするために、施設の維持管理及び環境整備を行います。									
事業の 主な 実施状況	庁用備品を購入し、学校設備を充足させました。									
		種類	金額	効果						
		デジタルカメラ	89,683円	利用機会が重複することのないよう数を充足させました。						
		大判ジェットプリンター プリンター専用台	199,476円	大判プリントが容易にでき学級掲示、行事等で活用しました。						
		ガスコンロ	28,080円	故障して動かなくなったものを取り換えることができました。						
										
		・デジタルカメラ		・大判プリンター		・ガスコンロ				
成果と 課題	【前年度課題の概要】									
	① 設備等の老朽化により修繕が必要な状況です。(H4.8月建築) ② 学習環境の改善(気温の高い夏場に集中して学習に取り組む環境整備)が必要です。									
	【成果及び前年度課題に対する対応】									
	① 職員による定期的な点検により、早期に不具合を発見し、修繕対応を行いました。 ② 必要な備品の購入、更新により教育環境を整備しました。									
【次年度に向けての課題】										
① 設備等の老朽化により修繕が必要な状況です。 ② 学習環境の改善(気温の高い夏場に集中して学習に取り組む環境整備)が必要です。										
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10.7,3.0
	評価点	7	10	5	3	3	1	妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10.7,3.0
								公平性	受益者の偏りはないか。	5.3,1.0
								有効性	目標数値は達成できたか。	5.3,1.0
合計点	29	総合 評価	B	児童が安心して生活できる学校の施設管理のため、必要不可欠であり継続して行うべきと判断します。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止		

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	379	事業名	一般経常経費（船上小）			会計区分	一般会計		
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係		事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続		
予算区分	款	9	教育費	項	2	小学校費	目	1	学校管理費
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳（千円）					備考 (その他収入の内訳)	
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源		
平成29年度	2,777	2,532	0	0	0	0	2,532		
平成29年度(明許)									
経費の内訳	需用費 1,536千円、役務費 734千円、原材料費 35千円、備品購入費 227千円								
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)		
設定なし		目標	—	—	—	—	—	—	
		実績	—	—	—	—	—	—	
		達成率	—	—	—	—	—	—	
事業対象	船上小学校 児童 150人、教職員19人、学級数 8（内、特別支援学級 2）								
事業目的	船上小学校の運営を円滑にするために、施設の維持管理及び環境整備を行います。								
事業の 主な 実施状況	<p>児童が安全・安心に学校生活ができるよう環境整備を行いました。 (H6改築)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書室・会議室の蛍光灯取替修理を行い 照度の改善を行いました。 ・保健室の電気温水器に漏水が発生したため、修理を行い、使用可能となりました。 								
									
成果と 課題	<p>【前年度課題の概要】</p> <p>① 改築から20年以上が経過し、施設設備・備品の老朽化による対応が必要となっています。 (H6改築)</p> <p>【成果及び前年度課題に対する対応】</p> <p>① 定期的に安全点検を行うことにより、不具合を発見し、迅速に対応することにより児童が安全・安心に学習できる環境を整えることができました。</p> <p>【次年度に向けての課題】</p> <p>① 施設の老朽化に伴う修繕については配分予算内の対応が難しい状況です。</p>								
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0
	評価点	7	10	5	3	3	1	妥当性 行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0
								公平性 受益者の偏りはないか。	5,3,1,0
								有効性 目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
合計点	29	総合 評価	B	児童が安心して生活できる学校の施設管理のため、必要不可欠であり継続して行うべきと判断します。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止	

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	256	事業名	一般経常経費(配分外)			会計区分	一般会計		
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係	事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続			
予算区分	款	9	教育費	項	2	小学校費	目	1	学校管理費
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)	
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源		
平成29年度	71,166	64,875	2,857		360		61,658	日本スポーツ振興センター保険保護者負担	
平成29年度(明許)									
経費の内訳	報償費 2,051千円、賃金 9,225千円、需用費 19,074千円、役務費 903千円 委託料 18,860千円、使用料及び賃借料 1,956千円、工事請負費9,945千円 備品購入費 1,698千円、負担金、補助及び交付金1,163千円								
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)		
設定なし		目標	—	—	—	—	—	—	
		実績	—	—	—	—	—	—	
		達成率	—	—	—	—	—	—	
事業対象	小学校 5校 対象児童数892名								
事業目的	小学校の運営を円滑にするために施設維持及び整備、環境整備を行う。								
事業の 主な 実施状況	聖郷小学校バリアフリー改修 平成30年度入学予定の肢体不自由児への対応のため、学校施設のバリアフリー化を行いました。								
	 <p>階段にレール設置</p>	 <p>昇降用リフトの設置</p>							
成果と 課題	【前年度課題の概要】								
	① 施設等の経年により修繕や補修が増加し、維持管理の経費がかかっています。								
	【成果及び前年度課題に対する対応】								
	① 平成30年度入学予定の肢体不自由児への対応のため、学校施設のバリアフリー化を行いました。 ② 学校の教育環境整備に取り組み、円滑な学校運営ができるよう勤めました。								
【次年度に向けての課題】									
① 施設等の経年により修繕や補修が増加し、維持管理の経費がかかっています。 ② 夏季の教育環境の改善のため、空調設備の設置が望まれます。 ③ スクールバスの業務委託満了年度であり、委託業者の選定作業を行う必要があります。									
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。 10,7,3,0 妥当性 行政必須か、委託の可能性は。 10,7,3,0 公平性 受益者の偏りはないか。 5,3,1,0 有効性 目標数値は達成できたか。 5,3,1,0 効率性 コスト・人員効率はどうか。 5,3,1,0 先駆性・独創性 他の見本となりえるか。 5,3,1,0	
	評価点	10	10	5	3	3	1		
	合計点	32	総合評価	B	小学校の運営を円滑にするため、継続して行うべきであると判断します。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書																																				
事業番号	257	事業名	一般経常経費 (八橋小)				会計区分	一般会計																												
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係		事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続																													
予算区分	款	9	教育費		項	2	小学校費		目	1	学校管理費																									
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)																												
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源																													
平成29年度	3,595	3,307	0	0	0	0	3,307																													
平成29年度(明許)																																				
経費の内訳		需用費 2,346千円、役務費 961千円																																		
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)																													
設定なし		目標	—	—	—	—	—																													
		実績	—	—	—	—	—																													
		達成率	—	—	—	—	—																													
事業対象	八橋小学校 児童 203人、教職員 25人、学級数 13(内、特別支援学級 5)																																			
事業目的	八橋小学校の運営を円滑にするために、施設の維持管理及び環境整備を行います。																																			
事業の 主な 実施状況	<p>八橋小学校 学校管理費 修繕料 緊急対応用として 配当予算 2万円 平成29年度実績 計 3件 ① 理科室・校長室の排水修理 ② 2年1組教室照明器具取替 ③ 体育館コンセント破損による取替 ② 照明器具を点灯するよう修繕しました。 ③ 破損して飛び出たコンセントを修繕しました。</p>																																			
	 																																			
成果と 課題	<p>【前年度課題の概要】 ① 施設及び設備の老朽化が進んでおり、突発的な破損や故障、不具合が多い状況です。(S44.12建築)</p> <p>【成果及び前年度課題に対する対応】 ① 定期的に施設設備の点検を行うことにより、早期に不具合を発見し対応しました。 ② 29年度は、照明器具、貯水槽、排水設備、臭排塔、温風暖房機など緊急対応が多発し、配分外予算にて対応することになりました。</p> <p>【次年度に向けての課題】 ① 施設の老朽化に伴う修繕については配分予算内の対応が難しい状況です。</p>																																			
	<table border="1"> <tr> <th rowspan="4">所管課の 評価</th> <th>評価項目</th> <th>必要性</th> <th>妥当性</th> <th>公平性</th> <th>有効性</th> <th>効率性</th> <th>先駆性 独創性</th> <th>必要性</th> <td>住民ニーズ、事業の必要性は。</td> <td>10,7,3,0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">評価点</td> <td rowspan="3">7</td> <td rowspan="3">10</td> <td rowspan="3">5</td> <td rowspan="3">3</td> <td rowspan="3">3</td> <td rowspan="3">1</td> <td>妥当性</td> <td>行政必須か、委託の可能性は。</td> <td>10,7,3,0</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>受益者の偏りはないか。</td> <td>5,3,1,0</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>目標数値は達成できたか。</td> <td>5,3,1,0</td> </tr> <tr> <td>合計点</td> <td>29</td> <td>総合評価</td> <td>B</td> <td colspan="4">児童が安心して生活できる学校の施設管理のため、必要不可欠であり継続して行うべきと判断します。</td> <td>A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止</td> </tr> </table>	所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0	評価点	7	10	5	3	3	1	妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0	公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0	有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0	合計点	29	総合評価	B	児童が安心して生活できる学校の施設管理のため、必要不可欠であり継続して行うべきと判断します。			
所管課の 評価	評価項目		必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0																									
	評価点		7	10	5	3	3	1	妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0																									
									公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0																									
		有効性							目標数値は達成できたか。	5,3,1,0																										
合計点	29	総合評価	B	児童が安心して生活できる学校の施設管理のため、必要不可欠であり継続して行うべきと判断します。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止																												

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	264	事業名	一般教育振興費（浦安小）			会計区分	一般会計			
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係		事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続			
予算区分	款	9	教育費	項	2	小学校費	目	2	教育振興費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳（千円）					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	2,421	2,306	0	0	0	0	2,306			
平成29年度(明許)										
経費の内訳	報償費 20千円、需用費 894千円、役務費 484千円、備品購入費 908千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
設定なし		目標	—	—	—	—	—			
		実績	—	—	—	—	—			
		達成率	—	—	—	—	—			
事業対象	浦安小学校 児童 212人、教職員 26人、学級数 12（内、特別支援学級 4）									
事業目的	教育振興のため、教材・図書等の教育環境を整備し、学力向上を目指します。									
事業の 主な 実施状況	【購入した主な教材備品】 学校共用備品									
			理科備品 		音楽備品 					
体育備品 										
成果と 課題	【前年度課題の概要】 ① 優先順位を検討しながら事業をおこなっていますが、不足している教材等もあるため、計画的に整備を進める必要があります。									
	【成果及び前年度課題に対する対応】 ① 教材備品を購入し、学習発表会でも使用するなど有効に活用を図りました。 ② 備品点検を実施して教材備品の現有状況を把握し、次年度の購入要求につなげました。 ③ 学力テストや診断テスト、知能検査やHyper-QUを実施し、学力向上及び児童理解による学級経営に活かすことができました。									
【次年度に向けての課題】 ① 教育ニーズに対応した教材備品の導入が必要です。 ② 現有備品の計画的な更新が必要です。										
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0	
	評価点	7	10	1	3	3	1	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0	
								公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0
								有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
合計点	25	総合 評価	B	教育振興のため学習環境整備を継続して行うべきと判断します。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止		

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	265	事業名	一般教育振興費（聖郷小）			会計区分	一般会計		
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係		事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続		
予算区分	款	9	教育費	項	2	小学校費	目	2	教育振興費
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳（千円）					備考 (その他収入の内訳)	
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源		
平成29年度	1,389	1,278	0	0	235	0	1,043	図書購入基金	
平成29年度(明許)									
経費の内訳	報償費 11千円、需用費 609千円、役務費 242千円、備品購入費 416千円								
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)		
設定なし		目標	—	—	—	—	—		
		実績	—	—	—	—	—		
		達成率	—	—	—	—	—		
事業対象	聖郷小学校 児童 107人、教職員 20人、学級数 8（内、特別支援学級 2）								
事業目的	教育振興のため、教材・図書等の教育環境を整備し、学力向上を目指します。								
事業の 主な 実施状況	 児童図書購入234千円		 拡大印刷したカラー教材を使って授業研をしています。						
	 教材備品購入150千円								
成果と 課題	【前年度課題の概要】								
	① 優先順位の高いものから備品の整備を行う必要があります。								
	【成果及び前年度課題に対する対応】								
	① 必要な備品・図書等を購入し、教育環境を整備しました。								
【次年度に向けての課題】									
① 肢体不自由児への必要な備品の整備が必要です。									
② 教育ニーズに対応した教材備品の導入が必要です。									
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。 10,7,3,0 妥当性 行政必須か、委託の可能性は。 10,7,3,0 公平性 受益者の偏りはないか。 5,3,1,0 有効性 目標数値は達成できたか。 5,3,1,0 効率性 コスト・人員効率はどうか。 5,3,1,0 先駆性・独創性 他の見本となりえるか。 5,3,1,0	
	評価点	7	10	1	3	3	1		
	合計点	25	総合 評価	B	教育振興のため学習環境整備を継続して行うべきと判断します。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	382	事業名	一般教育振興費（赤碕小）			会計区分	一般会計		
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係		事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続		
予算区分	款	9	教育費	項	2	小学校費	目	2	教育振興費
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳（千円）					備考 (その他収入の内訳)	
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源		
平成29年度	2,220	2,151	0	0	467	0	1,684	図書購入基金	
平成29年度(明許)									
経費の内訳	報償費 8千円、需用費 820千円、役務費 480千円、備品購入費 843千円								
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)		
設定なし		目標	—	—	—	—	—		
		実績	—	—	—	—	—		
		達成率	—	—	—	—	—		
事業対象	赤碕小学校 児童 220人、教職員 26人、学級数 13（内、特別支援学級 4）								
事業目的	教育振興のため、教材・図書等の教育環境を整備し、学力向上を目指します。								
事業の 主な 実施状況	授業で使用する教材備品を購入し、より分かりやすい授業を行うことができました。								
	教科	金額	種類			効果			
	音楽備品	289,440円	オルガン、コンガセット等			新しい音色を味わう等学習内容の充実を図りました。			
	算数備品	59,832円	少数と整数の関係シート等			数の仕組み理解を視覚的に教えることができました。			
	家庭科備品	25,272円	アイロン			多くの児童に一齐に指導することができました。			
									
成果と 課題	【前年度課題の概要】								
	① 消耗品費(用紙、インク)の充実が課題です。								
	【成果及び前年度課題に対する対応】								
	① 必要な教材備品を購入し、学習環境を整備しました。 ② 印刷枚数に対応したコピー機、印刷機の使用方法を徹底し、消耗品費を節約しました。								
【次年度に向けての課題】									
① 消耗品費の充実が課題です。									
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。 10.7,3.0 妥当性 行政必須か、委託の可能性は。 10.7,3.0 公平性 受益者の偏りはないか。 5.3,1.0 有効性 目標数値は達成できたか。 5.3,1.0 効率性 コスト・人員効率はどうか。 5.3,1.0 先駆性・独創性 他の見本となりえるか。 5.3,1.0	
	評価点	7	10	1	3	3	1		
	合計点	25	総合 評価	B	教育振興のため学習環境整備を継続して行うべきと判断します。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	383	事業名	一般教育振興費（船上小）			会計区分	一般会計			
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係		事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続			
予算区分	款	9	教育費	項	2	小学校費	目	2	教育振興費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳（千円）					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	1,843	1,742	0	0	309	0	1,433	図書購入基金		
平成29年度(明許)										
経費の内訳	報償費 35千円、旅費 3千円、需用費 695千円、役務費 328千円、備品購入費 681千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
設定なし		目標	—	—	—	—	—			
		実績	—	—	—	—	—			
		達成率	—	—	—	—	—			
事業対象	船上小学校 児童 150人、教職員19人、学級数 8（内、特別支援学級 2）									
事業目的	教育振興のため、教材・図書等の教育環境を整備し、学力向上を目指します。									
事業の 主な 実施状況	・講師を招聘して研究授業を行い、教師の指導力の向上や児童の学力向上に繋がっています。									
										
成果と 課題	【前年度課題の概要】									
	① 船上小としての教師の指導力と児童の学力向上を図るため、継続して講師謝金等の公費による予算化が必要です。									
	② 小学校統合により教材備品を持ち寄っているが、老朽化により故障し不足している。児童の学習に必要な備品を充実させる必要があります。									
	【成果及び前年度課題に対する対応】									
① 講師謝金等の予算を有効に活用し、地域教材を活かした研究を継続して行うとともに国語科など教科領域を広げて研究を行うことにより、教師の指導力向上や児童の学力向上に繋がっています。										
【次年度に向けての課題】										
① 教材備品の耐用年数が過ぎ、故障等で現有不足が生じているため、継続的な更新が必要です。										
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 妥当性 公平性	住民ニーズ、事業の必要性は。 行政必須か、委託の可能性は。 受益者の偏りはないか。	10,7,3,0 10,7,3,0 5,3,1,0
	評価点	7	10	1	3	3	1	有効性 効率性 先駆性・独創性	目標数値は達成できたか。 コスト・人員効率はどうか。 他の見本となりえるか。	5,3,1,0 5,3,1,0 5,3,1,0
	合計点	25	総合 評価	B	教育振興のため学習環境整備を継続して行うべきと判断します。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止	

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	262	事業名	一般教育振興費(配分外)				会計区分	一般会計													
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係		事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続														
予算区分	款	9	教育費	項	2	小学校費	目	2	教育振興費												
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)													
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源														
平成29年度	29,243	28,966	540		26,807		1,619	ふるさと未来夢基金 25,000千円													
平成29年度(明許)																					
経費の内訳	報償費 547千円、旅費 141千円、委託料 418千円、使用料 14,755千円 備品購入費 2,091千円、負担金、補助及び交付金 2,195千円、扶助費 8,819千円																				
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)														
設定なし		目標	—	—	—	—	—														
		実績	—	—	—	—	—														
		達成率	—	—	—	—	—														
事業対象	小学校 5校 対象児童数892名																				
事業目的	小学校の運営を円滑にするために施設維持及び整備、環境整備を行います。																				
事業の 主な 実施状況	<p>パソコン等リース料 13,796千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童用パソコンリース料 12,167,820円 各小学校パソコン教室に児童用ノートパソコン、タブレット端末を整備しました。 ・教室用パソコンリース料 1,381,536円、プロジェクターリース料 246,240円 各小学校の教室にパソコンとプロジェクターを整備し、児童の視覚支援をすることにより、授業の理解の向上に役立ちました。 <p>就学援助費 7,615,415円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済的な支援を必要とする家庭に対し、経済的支援を行い、教育の機会均等を図りました。 また、新入学児童生徒学用品費の入学前支給を実施しました。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>金 額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学用品費・通学用品費</td> <td>1,330,527</td> </tr> <tr> <td>新入学児童生徒学用品費(入学前支給分含)</td> <td>590,910</td> </tr> <tr> <td>修学旅行費</td> <td>492,716</td> </tr> <tr> <td>学校給食費</td> <td>4,945,600</td> </tr> <tr> <td>その他 医療費、校外活動費</td> <td>255,662</td> </tr> </tbody> </table>									項 目	金 額(円)	学用品費・通学用品費	1,330,527	新入学児童生徒学用品費(入学前支給分含)	590,910	修学旅行費	492,716	学校給食費	4,945,600	その他 医療費、校外活動費	255,662
項 目	金 額(円)																				
学用品費・通学用品費	1,330,527																				
新入学児童生徒学用品費(入学前支給分含)	590,910																				
修学旅行費	492,716																				
学校給食費	4,945,600																				
その他 医療費、校外活動費	255,662																				
成果と 課題	<p>【前年度課題の概要】</p> <p>① 教育用情報機器をはじめとする、備品・教材の整備を継続して効果的に進める必要があります。</p> <p>【成果及び前年度課題に対する対応】</p> <p>① 授業にパソコンやタブレット端末を使用することにより、児童に「情報活用能力」を身につけさせるための授業を行うことができました。</p> <p>② 教室用パソコンとプロジェクターを整備することにより、児童の授業に対する視覚支援を行い、児童の理解力向上に役立てることができました。</p> <p>③ 就学援助費により低所得家庭の教育費の負担を軽減しました。</p> <p>【次年度に向けての課題】</p> <p>① 児童用パソコンが平成30年度末にリース期間満了となるため、新たな端末の導入に向けて検討する必要があります。</p> <p>② 教育用情報機器をはじめとする、備品・教材の整備を継続して効果的に進める必要があります。</p>																				
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10.7,3.0											
	評価点	7	10	1	3	3	0	妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10.7,3.0											
								公平性	受益者の偏りはないか。	5.3,1.0											
								有効性	目標数値は達成できたか。	5.3,1.0											
合計点	24	総合評価	B	教育振興のため、継続すべき事業と考えています。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止													

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	263	事業名	一般教育振興費（八橋小）			会計区分	一般会計		
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係		事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続		
予算区分	款	9	教育費	項	2	小学校費	目	2	教育振興費
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳（千円）					備考 (その他収入の内訳)	
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源		
平成29年度	2,630	2,432	0	0	0	0	2,432		
平成29年度(明許)									
経費の内訳	報償費 31千円、旅費1千円、需用費 822千円、役務費 468千円、備品購入費 1,110千円								
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)		
設定なし		目標	—	—	—	—	—		
		実績	—	—	—	—	—		
		達成率	—	—	—	—	—		
事業対象	八橋小学校 児童 203人、教職員 25人、学級数 13(内、特別支援学級 5)								
事業目的	教育振興のため、教材・図書等の教育環境を整備し、学力向上を目指します。								
事業の 主な 実施状況	児童の学力及び体力の向上を図るために有効な教材備品等の整備しました。				算数科学習の研究を推進するため、講師を招聘し、職員研修会を開催しました。町内の学校から多くの参加者がありました。 (写真: 筑波大学附属小盛山隆雄教諭による理論研究会)				
									
		備品購入費で、USBメモリ対応のオルガンを1台購入し、学習発表会で活用できました。							
成果と 課題	【前年度課題の概要】								
	① 教材備品について、現有状況を確認し、計画的な整備が必要です。								
	【成果及び前年度課題に対する対応】								
	① 教材備品等の購入により教育環境の充実を図りました。								
【次年度に向けての課題】									
① 教材備品について、引き続き現有状況を確認し、計画的な整備が必要です。									
② 教育ニーズに対応した教材備品の導入が必要です。									
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0
	評価点	7	10	1	3	3	1	妥当性 行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0
								公平性 受益者の偏りはないか。	5,3,1,0
								有効性 目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
合計点	25	総合 評価	B	教育振興のため学習環境整備を継続して行うべきと判断します。				効率性 コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0
							先駆性・独創性 他の見本となりえるか。	5,3,1,0	
								A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止	

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	269	事業名	総合的な学習				会計区分	一般会計		
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係	事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続				
予算区分	款	9	教育費	項	2	小学校費	目	2	教育振興費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	799	774					774			
平成29年度(明許)										
経費の内訳	報償費 50千円、需要費 324千円、使用料及び賃借料 400千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
設定なし		目標	—	—	—	—	—			
		実績	—	—	—	—	—			
		達成率	—	—	—	—	—			
事業対象	小学校 5校 対象児童数154名									
事業目的	地域の自然や文化など学校の実態等に応じて、横断的・総合的な学習や生徒の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行い、自ら学び自ら考える力など全人的な生きる力の育成を図ります。									
事業の 主な 実施状況	<p>梨栽培体験学習</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>5月:小袋掛け</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>9月:収穫</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>6月:大袋掛け</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>9月:選果場見学</p> </div> </div>									
成果と 課題	<p>【前年度課題の概要】</p> <p>① 学習効果を高めるために、学校行事や強化と関連させた計画的な実施が求められます。</p> <p>② 体験学習については、人材の高齢化に伴う受け入れ先の確保が課題となっています。</p> <p>【成果及び前年度課題に対する対応】</p> <p>① 地域の教材や人材を活用した学習を仕組むことで、地域への愛着が深まり、地域へ働きかける児童が増えてきています。</p> <p>② 農産物の栽培体験を通じて、琴浦町の特産品を知る良い機会となりました。</p> <p>③ 次年度以降に向けて、新たな農家の協力が得られました。</p> <p>【次年度に向けての課題】</p> <p>① 学習効果を高めるために、学校行事や強化と関連させた計画的な実施が求められます。</p> <p>② 体験学習については、人材の高齢化に伴う受け入れ先の確保が課題となっています。</p>									
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 妥当性 公平性	住民ニーズ、事業の必要性は。 行政必須か、委託の可能性は。 受益者の偏りはないか。	10,7,3,0 10,7,3,0 5,3,1,0
	評価点	10	10	3	5	3	3	有効性 効率性 先駆性・独創性	目標数値は達成できたか。 コスト・人員効率はどうか。 他の見本となりえるか。	5,3,1,0 5,3,1,0 5,3,1,0
	合計点	34	総合 評価	B	学校教育の重点目標(地域に根ざした教育活動の 充実)達成のため、継続して行うべきと判断します。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止	

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書										
事業番号	1056	事業名	通級指導教室				会計区分	一般会計		
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係		事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続			
予算区分	款	9	教育費	項	2	小学校費	目	2	教育振興費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	82	74	0	0	0	0	74			
平成29年度(明許)										
経費の内訳		需用費 47千円、備品購入費 27千円								
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
設定なし		目標	—	—	—	—	—	—	—	
		実績	—	—	—	—	—	—	—	
		達成率	—	—	—	—	—	—	—	
事業対象	八橋小学校通級指導教室(町内全小学校対象)									
事業目的	発達障がい通級指導教室を開設し、通常の学級における指導だけでは不十分な発達障がいのある児童に対し、個々の障がいの種類・程度に応じたきめ細やかな教育を行います。教室の運営に必要な維持管理及び環境整備を行います。									
事業の 主な 実施状況	<p>通級指導教室に通う児童一人ひとりの実態に合わせた学習教材、教材備品を整備しました。</p> <p>通級指導教室 前側 (八橋小学校 教室棟2 まなびの教室)</p> <p>通級指導教室 後側</p> <p>備品購入費 27千円</p> <p>クアドリラ ツイスト&レールセット 児童が楽しみながら、遊びの中で空間認知や推論の基礎を育てます。</p>									
	成果と 課題	<p>【前年度課題の概要】</p> <p>① 町内各小学校から通級指導教室に通う児童について、個々の障がいの状態に応じた適切な環境整備を行い、指導の充実を図ることが必要です。</p> <p>【成果及び前年度課題に対する対応】</p> <p>① 通級指導教室は、発達障がいのある児童が、町内各学校から毎週通ってきて、学習する教室です。1年生から6年生までの児童一人一人の実態に合わせ、個に応じた決め細やかな指導を行っています。</p> <p>② 指導内容を工夫し、楽しく学ぶための学習教材、ソーシャルスキルトレーニング用具など多様な教材備品を整備することで、充実した通級指導を行いました。その結果、通常の学級での学習に対応できる適応力の向上を図ることができました。</p> <p>【次年度に向けての課題】</p> <p>① 学習や学校生活でつまづきや困り感がある児童に対して、課題を改善し克服していくために個別の支援を行い、個々の状況に応じた教材・教具の整備を引き続き進めていくことが必要です。</p> <p>② 他校から通級している児童の学級担任と、通級指導担当者の連携を更に強化し、そのための仕組みづくりと環境整備が必要になります。</p>								
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0
								妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0
								公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0
								有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
	評価点	10	10	1	3	3	3	効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0
								先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0
	合計点	30	総合 評価	B	発達障がいのある児童について、個々の障がいの種類・程度に応じた教育を行うために継続すべきと判断します。					A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	386	事業名	一般経常経費（赤碕中）			会計区分	一般会計		
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係		事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続		
予算区分	款	9	教育費	項	3	中学校費	目	1	学校管理費
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳（千円）					備考 (その他収入の内訳)	
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源		
平成29年度	3,204	3,044	0	0	0	0	3,044		
平成29年度(明許)									
経費の内訳	賃金 16千円、需用費 1,458千円、役務費 721千円、使用料及び賃借料 328千円 原材料費 38千円、備品購入費 483千円								
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)		
設定なし		目標	—	—	—	—	—	—	
		実績	—	—	—	—	—	—	
		達成率	—	—	—	—	—	—	
事業対象	赤碕中学校 生徒 177人、教職員 30人、学級数 8（内、特別支援学級 2）								
事業目的	赤碕中学校の運営を円滑にするために、施設の維持管理及び環境整備を行います。								
事業の 主な 実施状況	学校の管理運営において、生徒が安心して安全な学校生活ができる環境整備を行いました。部活や駅伝練習等での熱中症対策のため、製氷機の取り付けを行いました。								
									
成果と 課題	【前年度課題の概要】								
	① 生徒が安心して生活できる学校の施設管理は必要不可欠であり、継続して整備していく必要があります。（S51.6～S55.3建築）								
	【成果及び前年度課題に対する対応】								
	① 教育環境整備や施設維持管理に取り組み、円滑な学校運営に努めました。								
所管課の 評価	【次年度に向けての課題】								
	① 施設管理については過誤による破損などが減るよう努力するとともに、できる範囲で職員による修理などもしています。しかし、設備の老朽化による破損や不具合などは後を絶たず、継続的な措置が必要です。また、生徒の安全や健康に関する環境整備も同様に継続が望まれます。								
	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。 10,7,3,0 妥当性 行政必須か、委託の可能性は。 10,7,3,0 公平性 受益者の偏りはないか。 5,3,1,0 有効性 目標数値は達成できたか。 5,3,1,0 効率性 コスト・人員効率はどうか。 5,3,1,0 先駆性・独創性 他の見本となりえるか。 5,3,1,0	
	合計点	29	総合 評価	B	生徒が安心して生活できる学校の施設管理のため、必要不可欠であり、継続すべきと判断します。			A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止	

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	278	事業名	一般経常経費（東伯中）			会計区分	一般会計		
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係	事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続			
予算区分	款	9	教育費	項	3	中学校費	目	1	学校管理費
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳（千円）					備考 (その他収入の内訳)	
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源		
平成29年度	3,092	2,850	0	0	0	0	2,850		
平成29年度(明許)									
経費の内訳	賃金 57千円、需用費 1,894千円、役務費 581千円、使用料及び賃借料 281千円 備品 37千円								
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)		
設定なし		目標	—	—	—	—	—	—	
		実績	—	—	—	—	—	—	
		達成率	—	—	—	—	—	—	
事業対象	東伯中学校 生徒278人、教職員31人、学級数11（内、特別支援学級2）								
事業目的	東伯中学校の運営を円滑にするために、施設の維持管理及び環境整備を行います。								
事業の 主な 実施状況	【主な修繕箇所】			【庁用備品】					
	 ①保健室エアコン室外機故障  ②部室照明器具取替  ③教室放送器具取替	 ④補助給水槽 部品交換	 ⑤ミーティングルーム ロータンク部品交換	 <p>* 冷凍庫 特に暑い夏場など熱中症対策などで部活動中に氷を使用することが多いため、常に氷が使用できる状態は安心です。</p>					
成果と 課題	【前年度課題の概要】								
	① 体育館について、長期的に良好な状態を維持するためには、業者によるワックス剥離並びに塗布をすることが望まれます。 ② 施設及び設備の老朽化が進んでおり、突発的な破損や故障、不具合が多い状況です。（S39.12～S42.2建築） ③ コピー使用料が高く(1枚3.2円)消耗品費を圧迫しています。								
【成果及び前年度課題に対する対応】									
① 定期的に安全点検を実施し、不具合箇所の早期発見、対応を行いました。予算を超えて修繕が必要な場合は、予算要求を行いました。 ② 書類をPDF化するなどペーパーレス化を推奨し、経費削減努力を行いました。									
【次年度に向けての課題】									
① 施設の老朽化に伴う修繕については配分予算内の対応が難しい状況です。 ② ランニングコストが低いコピー機の導入が望まれます。									
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0
	評価点	7	10	3	3	3	1	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0
								受益者の偏りはないか。	5,3,1,0
								目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
合計点	27	総合 評価	B	生徒が安心して生活できる学校の施設管理のため、必要不可欠であり、継続すべきと判断します。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止	

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	277	事業名	一般経常経費(配分外)			会計区分	一般会計		
担当課	教育総務		担当係	庶務係、学務係、指導係		事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続		
予算区分	款	9	教育費	項	3	中学校費	目	1	学校管理費
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳(千円)					備考 (その他収入の内訳)	
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源		
平成29年度	57,846	57,593			30,962		26,631	公共施設等建設基金	
平成29年度(明許)									
経費の内訳	報酬 708千円、賃金 7,450千円、需用費 12,429千円、役務費 627千円、委託料 3,764千円 使用料及び賃借料 396千円、工事請負費 30,780千円、備品購入費 894千円 負担金 補助及び交付金 545千円								
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)		
設定なし		目標	—	—	—	—	—		
		実績	—	—	—	—	—		
		達成率	—	—	—	—	—		
事業対象	町立中学校 2校 対象生徒数 455名								
事業目的	中学校の教育・学習環境を確保するため、生徒の健康管理や必要な物品及び施設設備の整備と維持管理を行い、学校教育活動の円滑な運営を図ります。								
事業の 主な 実施状況	赤碕中学校給食配膳室 工事請負費 30,780千円 赤碕中学校の給食配膳室は旧給食センター内に設置されていましたが、配膳室までの渡り廊下が腐食し、修繕が必要な状況であったため、渡り廊下を取り壊し、あらたに配膳室を設置しました。								
	  	給食配膳室(南側)	給食配膳室(北側)	給食配膳室(内部)					
成果と 課題	【前年度課題の概要】 ① 施設等の経年により修繕や補修が増加し、維持管理の経費がかかっています。								
	【成果及び前年度課題に対する対応】 ① 赤碕中学校に給食配膳室を整備することにより、安全・衛生的な環境を整備しました。 ② 教育環境整備に取り組み、円滑な学校運営ができるよう努めました。								
所管課の 評価	【次年度に向けての課題】 ① 施設等の経年により不具合箇所が生じているため、維持管理の経費がかかっています。 ② 夏季の暑さ対策のため、空調設備の整備が必要です。								
	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。 10,7,3,0 妥当性 行政必須か、委託の可能性は。 10,7,3,0 公平性 受益者の偏りはないか。 5,3,1,0 有効性 目標数値は達成できたか。 5,3,1,0 効率性 コスト・人員効率はどうか。 5,3,1,0 先駆性・独創性 他の見本となりえるか。 5,3,1,0	
評価点	10	10	5	3	3	1			
合計点	32	総合評価	B	中学校の運営を円滑にするため、継続して行うべきであると判断します。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止	

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	389	事業名	一般教育振興費（赤碕中）			会計区分	一般会計			
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係		事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続			
予算区分	款	9	教育費	項	3	中学校費	目	2	教育振興費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳（千円）					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	3,118	2,805	0	0	634	0	2,171	図書購入基金		
平成29年度(明許)										
経費の内訳	報償費 105千円、需用費 1,078千円、役務費 600千円、備品購入費 1,022千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
設定なし		目標	—	—	—	—	—			
		実績	—	—	—	—	—			
		達成率	—	—	—	—	—			
事業対象	赤碕中学校 生徒 177人、教職員 30人、学級数 8（内、特別支援学級 2）									
事業目的	教育振興のため、教材・図書等の教育環境を整備し、学力向上を目指します。									
事業の 主な 実施状況	教育振興のための学習環境整備を行い、教材備品を活用した授業の充実を図りました。									
					 <p>50インチ液晶テレビ 2台 193千円</p>					
成果と 課題	【前年度課題の概要】									
	① 学習環境整備は年次ごとに継続的に進めていく必要があります。									
成果と 課題	【成果及び前年度課題に対する対応】									
	① 教育振興のための学習環境整備を行い、教材備品を活用した授業の充実を図りました。特に情報機器を活用した授業は生徒への意欲へと繋がりました。 ② 教材備品の更新により安心安全で効率的な学習が進められています。									
成果と 課題	【次年度に向けての課題】									
	① ICT関係の備品は、活用頻度も高く耐用年数が短い傾向にあるため、授業に関する環境整備は継続的に進めていく必要があります。									
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10.7,3.0
	評価点	7	10	1	3	3	1	妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10.7,3.0
								公平性	受益者の偏りはないか。	5.3,1.0
								有効性	目標数値は達成できたか。	5.3,1.0
合計点	25	総合 評価	B	教育振興のための学習環境整備を継続して行うべきであると判断します。				5.3,1.0	A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止	

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	281	事業名	一般教育振興費（東伯中）			会計区分	一般会計			
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係		事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続			
予算区分	款	9	教育費	項	3	中学校費	目	2	教育振興費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳（千円）					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	3,985	3,739	0	0	0	0	3,739			
平成29年度(明許)										
経費の内訳	報償費 157千円、需用費 1,396千円、役務費 955千円、使用料及び賃借料73千円 備品購入費 1,158千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
設定なし		目標	—	—	—	—	—	—		
		実績	—	—	—	—	—	—		
		達成率	—	—	—	—	—	—		
事業対象	東伯中学校 生徒278人、教職員31人、学級数11（内、特別支援学級2）									
事業目的	教育振興のため、教材・図書等の教育環境を整備し、学力向上を目指します。									
事業の 主な 実施状況	<p align="center">【図書館整備：生徒図書購入】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 季節や行事、学習 内容に合わせた コーナーづくり </div>									
	成果と 課題	<p>【前年度課題の概要】</p> <p>① ICT機器について、整備目標を立てて年次的に購入又は更新していくことが重要です。</p> <p>【成果及び前年度課題に対する対応】</p> <p>① 現有する教材備品を活用するなど、ICT機器も利用のきまりを設け授業を進めました。</p> <p>② 教材教具、部活動に係る備品の修繕を迅速に行うことで、支障をきたすことなく授業や活動を行うことができました。</p> <p>【次年度に向けての課題】</p> <p>① 吹奏楽部の楽器の修理が必要です。</p> <p>② 本校が定める学校経営方針に基づいた重点取組みに沿った研究を推進するために、継続的に講師を招聘する費用の配当を希望します。</p>								
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0	
	評価点	7	10	1	3	3	1	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0	
								公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0
								有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
合計点	25	総合 評価	B	教育振興のための学習環境整備を継続して行うべきであると判断します。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止		

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	280	事業名	一般教育振興費(配分外)				会計区分	一般会計													
担当課	教育総務		担当係	庶務係、学務係、指導係		事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続														
予算区分	款	9	教育費	項	3	中学校費	目	2	教育振興費												
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)													
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源														
平成29年度	21,918	20,651	231	152	20,000		268	ふるさと未来夢基金 20,000千円													
平成29年度(明許)																					
経費の内訳	報酬 300千円、旅費 1千円、役員費 4千円、委託料 40千円、 使用料及び賃借料 8,572千円、備品購入費 166千円、 負担金、補助金及び交付金 4,099千円、扶助費 7,469千円																				
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)														
設定なし		目標	—	—	—	—	—														
		実績	—	—	—	—	—														
		達成率	—	—	—	—	—														
事業対象	中学校 2校 対象生徒数 455名																				
事業目的	中学校の教育・学習環境を確保するため、生徒の健康管理や必要な物品及び施設設備の整備と維持管理を行い、学校教育活動の円滑な運営を図ります。																				
事業の 主な 実施状況	パソコンリース料 7,283,688円 ・生徒用パソコンリース料 6,635,160円 ・教育用タブレット端末リース料 648,528円 各中学校パソコン教室に生徒用ノートパソコン、タブレット端末を整備しました。 各種補助金 3,308,606円																				
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>補助金の種類</th> <th>金額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>修学旅行引率者補助金</td> <td>182,904円</td> </tr> <tr> <td>学校給食費等補助金</td> <td>866,002円</td> </tr> <tr> <td>遠距離通学生徒補助金</td> <td>1,749,600円</td> </tr> <tr> <td>部活動補助金</td> <td>410,100円</td> </tr> <tr> <td>個を生かす学校づくり補助金</td> <td>100,000円</td> </tr> </tbody> </table>						補助金の種類	金額(円)	修学旅行引率者補助金	182,904円	学校給食費等補助金	866,002円	遠距離通学生徒補助金	1,749,600円	部活動補助金	410,100円	個を生かす学校づくり補助金	100,000円
補助金の種類	金額(円)																				
修学旅行引率者補助金	182,904円																				
学校給食費等補助金	866,002円																				
遠距離通学生徒補助金	1,749,600円																				
部活動補助金	410,100円																				
個を生かす学校づくり補助金	100,000円																				
	就学援助費 7,170,200円 ・経済的支援を必要とする家庭に対し、経済的支援を行い、教育の機会均等を図りました。 また、新入学児童生徒学用品費の入学前支給を実施しました。																				
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>金額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学用品費・通学用品費</td> <td>1,294,418</td> </tr> <tr> <td>新入学児童生徒学用品費(入学前支給分含)</td> <td>1,087,800</td> </tr> <tr> <td>修学旅行費</td> <td>1,678,229</td> </tr> <tr> <td>学校給食費</td> <td>3,050,901</td> </tr> <tr> <td>その他 医療費、校外活動費</td> <td>58,852</td> </tr> </tbody> </table>						項目	金額(円)	学用品費・通学用品費	1,294,418	新入学児童生徒学用品費(入学前支給分含)	1,087,800	修学旅行費	1,678,229	学校給食費	3,050,901	その他 医療費、校外活動費	58,852
項目	金額(円)																				
学用品費・通学用品費	1,294,418																				
新入学児童生徒学用品費(入学前支給分含)	1,087,800																				
修学旅行費	1,678,229																				
学校給食費	3,050,901																				
その他 医療費、校外活動費	58,852																				
成果と 課題	【前年度課題の概要】 ① 生徒自らの学習意欲や将来への目的意識を高める必要があります。 ② プログラミング教育に対応できる教育用情報機器などの整備を継続して進める必要があります。																				
	【成果及び前年度課題に対する対応】 ① パソコン環境の整備により、プログラミング教育の推進に対応できました。 ② 各種補助金により、教員、保護者の経済的負担の軽減と生徒の学校活動の充実を図りました。 ③ 就学援助費により低所得家庭の教育費の負担を軽減しました。																				
	【次年度に向けての課題】 ① 生徒用パソコンが平成30年度末にリース期間満了となり、新たな端末を導入する必要があります。 ② プログラミング教育に対応できる教育用情報機器をはじめとする、備品・教材の整備を継続して効果的に進める必要があります。																				
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0											
								妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0											
	評価点	7	10	1	3	3	0	公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0											
								有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0											
合計点	24	総合 評価	B	教育振興のため、継続すべき事業と考えています。			効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0												
							先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0												
A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止																					

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	285	事業名	総合的な学習				会計区分	一般会計		
担当課	教育総務		担当係	庶務係、学務係、指導係	事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続				
予算区分	款	9	教育費	項	3	中学校費	目	1	学校管理費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	309	227						227		
平成29年度(明許)										
経費の内訳	報償費 56千円、需用費 52千円、役務費 53千円、使用料及び賃借料 66千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
設定なし		目標	—	—	—	—	—			
		実績	—	—	—	—	—			
		達成率	—	—	—	—	—			
事業対象	中学校生徒									
事業目的	地域の自然や文化など学校の実態等に応じて、横断的・総合的な学習や生徒の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行い、自ら学び自ら考える力など全人的な生きる力の育成を図ります。									
事業の 主な 実施状況	<p>【総合的な学習として、年間を通してそばを栽培し、加工・調理・食事までを体験】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>夏:種まき</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>秋:花のスケッチ</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>秋:収穫</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>冬:そば打ち</p>  </div> </div>									
成果と 課題	<p>【前年度課題の概要】</p> <p>① 教科内容と関連させながら、地域と共同できる活動を広げていく必要があります。</p> <p>【成果及び前年度課題に対する対応】</p> <p>① 農産物の栽培体験を通じて、地域の主要な産業である農業を知る機会となりました。</p> <p>【次年度に向けての課題】</p> <p>① 教科内容と関連させながら、地域と協働できる活動を広げていく必要があります。</p>									
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 妥当性 公平性	住民ニーズ、事業の必要性は。 行政必須か、委託の可能性は。 受益者の偏りはないか。	10,7,3,0 10,7,3,0 5,3,1,0
	評価点	10	10	3	5	3	3	有効性 効率性 先駆性・独創性	目標数値は達成できたか。 コスト・人員効率はどうか。 他の見本となりえるか。	5,3,1,0 5,3,1,0 5,3,1,0
	合計点	34	総合 評価	B	学校教育の重点目標(地域に根ざした教育活動の 充実)達成のため、継続して行うべきと判断します。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止	

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	1302	事業名	通級指導教室（中学校）			会計区分	一般会計			
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係	事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続				
予算区分	款	9	教育費	項	3	中学校費	目	2	教育振興費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳（千円）					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	84	77	0	0	0	0	77			
平成29年度(明許)										
経費の内訳	需用費 12千円、備品購入費 65千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
設定なし		目標	—	—	—	—	—	—		
		実績	—	—	—	—	—	—		
		達成率	—	—	—	—	—	—		
事業対象	中部管内の中学校生徒（16人）									
事業目的	中部管内の生徒を対象に発達障がい通級指導教室を開設し、通常の学級における指導だけでは不十分な発達障がいのある生徒に対し、個々の障がいの種類・程度に応じたきめ細やかな教育を行います。教室の運営に必要な維持管理及び環境整備を行います。									
事業の 主な 実施状況	<p>■経費総額:76,948円</p> <p>1 消耗品費 <内訳> 教科書ガイドなど教材、フラットファイル等</p> <p>2 教材備品費 <内訳> ノートパソコン 書くことの訓練のため</p> 									
成果と 課題	<p>【前年度課題の概要】</p> <p>① それぞれの生徒に応じた教材を整備する必要があります。</p> <p>【成果及び前年度課題に対する対応】</p> <p>① 特に「書くことの訓練」に使用するため、パソコンを購入し教具として有効に活用しました。</p> <p>【次年度に向けての課題】</p> <p>① 一人一人の生徒に応じた教材教具の整備が必要です。</p> <p>② 「聞くことの訓練」に対応する必要があります。</p>									
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 妥当性 公平性	住民ニーズ、事業の必要性は。 行政必須か、委託の可能性は。 受益者の偏りはないか。	10,7,3,0 10,7,3,0 5,3,1,0
	評価点	10	10	3	3	3	1	有効性 効率性 先駆性・独創性	目標数値は達成できたか。 コスト・人員効率はどうか。 他の見本となりえるか。	5,3,1,0 5,3,1,0 5,3,1,0
	合計点	30	総合 評価	B	発達障がいのある生徒について、個々の障がいの種類・程度に応じた教育を行うために継続するべきと判断します。			A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止		

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	353	事業名	学校給食事業				会計区分	一般会計		
担当課	教育総務課		担当係	庶務係、学務係、指導係	事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続				
予算区分	款	9	教育費	項	5	保健体育費	目	4	給食センター運営費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	78,845	78,763						78,763		
平成29年度(明許)										
経費の内訳	賃金 751千円、報償費 6千円、需用費 11,593千円、役務費 851千円、委託料 62,453千円、使用料及び賃借料 2,900千円、負担金、補助及び交付金 209千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
食に関する指導	時間	目標	110	212	208					
		実績	172.5	215.5	216					
		達成率	157%	102%	104%					
地産地消の取組み (県内産等指定44品目)	%	目標	71	77	77					
		実績	77	75	78					
		達成率	108%	97%	101%					
事業対象	小中学校児童生徒及び学校教職員等									
事業目的	児童生徒の心身の健全な発達に資するよう、バランスのとれた栄養豊かな給食を提供するとともに、学校給食を通じ、日常生活における食事について正しい理解と望ましい食習慣を養うなど、「食を通して生きる力を育む」ことを目的に、教育の一環として実施します。									
事業の主な実施状況	① 年間を通して米飯又はパン、牛乳、副食の完全給食を実施しました。 パン、米飯給食の割合は週5回の内、パン1回、米飯4回。牛乳の飲量は小学校、中学校ともに200cc。小・中学校ともに年間提供基準回数185回。 ② 琴浦町の食に関する指導計画をもとに、各学校の全体計画にそって給食時間や各教科において食育指導を行ないました。 ③ 地産地消の推進を図るため、地元JAや漁協、学校給食野菜会などと連携を図りながら、積極的に地元産の食材を活用しました。 ④ 食物アレルギーがある児童生徒に対し、学校・家庭と連携をとりながら個別にアレルギーの原因物質の除去を行なうなどアレルギー対応食の提供を行いました。									
成果と課題	【前年度課題の概要】 ① 地産地消率は天候不良の影響もあり、最終的に75%と前年度実績の77%を下回りました。 ② 厨房機器や給食運搬車等について、経年劣化により故障等のトラブルが増加しています。									
	【成果及び前年度課題に対する対応】 ① 米は町内産コシヒカリ、野菜については学校給食野菜会と連携を密にとり、肉、魚介類、味噌・ケチャップ等の加工品も含め、可能な限り地元産の食材を活用する事で、地産地消率は目標値の77%を上回る、78%を達成しました。 ② 機器の定期点検を実施し、緊急性の高いものから優先的に修繕対応を行いました。 ③ 学校給食衛生管理基準に基づく衛生管理を行い、日常的な設備の保守点検と修繕を行なったことで大きなトラブルも無く、安全安心で栄養バランスの取れた給食の提供を行なうことが出来ました。 ④ 34名の児童生徒に対して、個別にきめ細やかな食物アレルギーへの対応が出来ました。 ⑤ 米は町内産コシヒカリ、野菜については学校給食野菜会と連携を密にとり、肉、魚介類、味噌・ケチャップ等の加工品も含め、可能な限り地元産の食材を活用する事が出来ました。									
所管課の評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0
		妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性・独創性	必要性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0	
評価点	評価点	10	7	1	3	3	3	公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0
								有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
合計点	総合評価	27	B	学校給食は「食育」について取り組む重要な教育の場であり、また「食のセーフティネット(安全網)」としての役割も果たしていることなどから、引き続き事業を継続して行く必要があります。		A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止				
								効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0
								先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0



平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	1340	事業名	鳥取中部地震災害対策事業(地震災害復旧費・教育総務課)			会計区分	一般会計			
担当課	教育総務課		担当係	庶務係		事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続			
予算区分	款	10	災害復旧費	項	2	地震災害復旧費	目	2	鳥取県中部地震対策費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度										
平成29年度(明許)	5,385	5,349				2,700	2,649			
経費の内訳	需用費 5,349千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
設定なし		目標	—	—	—	—	—	—		
		実績	—	—	—	—	—	—		
		達成率	—	—	—	—	—	—		
事業対象	浦安小学校、聖郷小学校、八橋小学校、赤碕小学校、東伯中学校									
事業目的	鳥取県中部地震により被災した小・中学校施設の修繕を行います。									
事業の 主な 実施状況	鳥取県中部地震により被災した小・中学校施設を昨年度から引き続き修繕を行いました。									
成果と 課題	【前年度課題の概要】									
	① 大規模災害時に人的被害を最小限に抑えるための施設整備を、計画的に進める必要があります。									
	② 窓ガラスの飛散防止対策、照明器具の落下防止対策 などがが必要です。									
	【成果及び前年度課題に対する対応】									
① 鳥取県中部地震により被災した小・中学校施設の修繕を昨年から継続して行いました。										
【次年度に向けての課題】										
① 大規模災害時に人的被害を最小限に抑えるための施設整備が必要です。										
所管課 の評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 妥当性 公平性	住民ニーズ、事業の必要性は。 行政必須か、委託の可能性は。 受益者の偏りはないか。	10,7,3,0 10,7,3,0 5,3,1,0
	評価点	10	10	5	3	3	1	有効性 効率性 先駆性・独創性	目標数値は達成できたか。 コスト・人員効率はどうか。 他の見本となりえるか。	5,3,1,0 5,3,1,0 5,3,1,0
	合計点	32	総合 評価	E	被災した施設の修繕が完了するため				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止	